

新冠百話

第七十二話

「アイヌラックルの生いたちの話（伝説）」（要約文）

これは、新冠のアイヌの長に伝えられた物語である。幼いアイヌラックル（*1）は、山の奥深くにある城で、女神によって育てられていた。この女神は、肌が美しく光り輝いているような神々しさがあつた。毎朝、早く起きては食事を用意し、アイヌラックルを大切に育てて、不自由な生活を送っていた。

成長したアイヌラックルは、女神からシカを獲ってくるよう頼まれた。山奥の城を出て、初めて見る外の景色に感激しながら川づたいに歩いて行つた。すると、川の平岩にカワセミとカワガラスがとまつたのを見かけた。しかし、ふと見ると鳥に見えていた小鳥は、二人の少女の姿をしていて、二人とも衣服を手にしていた。何でも、この衣服を「大椀棚荒胸元鍋抱（おおわんたなあらしむなもとなかかえ）」と呼ばれる、別のアイヌラックルに贈るといふこと。自分に贈られる衣服ではないことにアイヌラックルは腹を立てたが、気を取り直して歩みを進めた。すると、角の大きなシカを見かけた。気を付けながら矢を放つと、見事命中してシカは倒れた。獲つたシカを持って城へ戻る途中、先ほどの少女たちが衣服を持ちながら戯れていた。アイヌラックルは腹を立てて服を引き裂いてしまった。

とても喜んだ。シカの肉を煮て、二人で一緒においしく食べた。食べ終わると女神はゆつくりと話をはじめた。

『さあ、祖父から伝えられた昔話を話そう。どんなことを聞いても腹を立ててはならないよ。最初に天から降ろされたのは「チキサニの神（ハルニレ（*2）の女神）」だった。そこに、蒼天の神が現れた。これは、兄弟の男神で二人の神だった。男神の方はチキサニと仲良くなり、親しくしていたが、やがて戦に明け暮れるようになった。まさに、食事をとる暇もないくらい戦に追われた。たまに食事を折には、所かまわず家に押し入つては一番大きな椀を棚から取り出しては食べ物に食らいついた。ついにはそれも面倒になり、鍋を胸の所まで抱え上げ、かぶりつきながら鍋飯を食べたという。そのため、この男神は「大椀棚荒胸元鍋抱」というあだ名で呼ばれるようになった。その後、この男神とハルニレの女神は、人間界に降りて子どもを授かることになった。そして生まれたのが、あなただったのだ。そして、あなたの伯父、蒼天の男神には六人の娘がいた。一番下の娘が人間世界を照らす日の女神、すなわち私なのだ。高貴な神の子であるあなたを、神の世界で育てるのではなく、人間の世界で重み与えるため、私はこの地に下つてあなたを育てているのだ。』と、アイヌラックルを育てている女神は語つたのだ。

*1「アイヌラックル」

「人間のような神」という意味。アイヌ伝承の英雄神で、地上におけるアイヌ民族の祖として登場する。

*2「ハルニレ」

ニレ科の高木。アイヌ民族はニレの皮の繊維を使い衣服をつくる。

戸籍の窓

8月21日～9月20日までの届出分（敬称略）

●いつまでもお幸せに

田口 伸也 ♡ 奥山 綾香 北星町
柏木 将太 ♡ 遠藤 綾香 中央町

●お誕生おめでとうございます

竹澤 楓悟（孝広 千鶴） 東町

●おくやみ申し上げます

竹中 スミエ 92歳 美 宇
芳住 邦子 75歳 大 富
小田島 シゲ 92歳 高 江
浅川 房江 99歳 東 泊津
中村 正子 75歳 大 富
齊藤 霧都美 44歳 太 陽
泉澤 カズ子 93歳 古 岸

●お問い合わせ先

町民生活課 町民生活グループ住民係
☎ 0146・47・2112

灯油タンク（ホームタンク）の油漏れに注意！

老朽化による配管・タンクの腐食／配管の誤切断・損傷により漏油が発生し、環境汚染や重大な事故に繋がります。

使用する時期の前に今一度確認をお願いします。

消防署新冠支署

火災・救急出動状況（ ）かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数	災害出動件数
9月	0件（0件）	29件（25件）	3件（2件）
6年1～9月	4件（3件）	212件（262件）	14件（23件）

区分	発生件数	死者	傷者
9月	1件（0件）	0人（0人）	1人（0人）
6年1～9月	3件（3件）	0人（0人）	6人（3人）

人のうごき

（令和6年9月末現在）

人口 5,054人（前月比 - 11人）
男 2,545人（前月比 ± 0人）
女 2,509人（前月比 - 11人）
世帯 2,824世帯（前月比 - 4世帯）